

愛知県議会議員

— 自民党 2 期 —

神谷 和利



政府の「花粉症に関する関係閣僚会議」において、スギ花粉の発生量を30年ほど半減させることや、花粉の少ないスギ苗木の生産割合を10年後には全体の9割以上に引き上げるなど、花粉症対策の

昭和36年1月2日生まれ。豊田市柿本町3-34。愛知県議会福祉医療委員会委員長。同カーボンニュートラル調査特別委員会委員。自民党愛知県第11選挙区副支部長。元豊田市議会議員。愛知県森林協会副会長。豊田市少林寺拳法協会会長。ボーイスカウト豊田地区副協議会長。

30年でスギ人工林を半減へ

全体像が取りまとめられました。実現するには、スギ人工林を「間伐」ではなく「皆伐」し、新たな植林を進めなければなりません。

間伐は国・県・市の補助制度で進められてきましたが、皆伐に対

する補助はありません。

伐採後の植栽、獣害対策、下刈り、間伐など

政府の花粉症対策は

林業復興へつながるか

の保育作業までを考えたとき、木材の売り上げと保育にかかる経費

は林業従事者の育成で

す。30年間でスギ人工林を半減するには今の

10倍の労働力が必要と

言われています。いか

に高性能林業機械を充実させても稼働できる人材がいなければ話になりません。人材の育

成は10年以上必要です。

「川中」の課題は製材技術です。現在の量産型製材システムは、

中小径木(間伐材)用に設計されており、重い

大径材を処理できません。戦後の高度成長期に植えられ、直径30セ

ンチ以上に育ったスギ大径材を効率よく製材できる工場が必要です。「川下」の課題は建築物における木材の利用促進です。非住宅(事務所・店舗)建築で、

構造材や内装材に木材の利用促進を図り、木造の高層建築に関する技術開発も必要です。国は今年中に「林業活性化・木材利用推進パッケージ」を策定し、花粉症対策の実現に向けて林業の活性化や木材利用の推進を図るとしています。これが林業復興への大転換期につながることを大いに期待しています。

が釣り合わず伐採が進まないのが現状です。

まず、木材生産・販売コストにプラスして

植栽・保育に係る経費

分の補助制度を確立し、

山林所有者の同意を得ることが大前提です。

次に「川上」の課題